

# 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	杉 林 由 季 子
論文審査担当者	主 査	医療政策・管理学	池 上 直 己	
精神神経科学	三 村 将	衛生学公衆衛生学	武 林 亨	
内科学	鈴 木 則 宏			
学力確認担当者：			審査委員長：三村 将	
			試問日：平成26年10月27日	
<b>( 論 文 審 査 の 要 旨 )</b>				
論文題名：Influence of patient characteristics on care time in patients hospitalized with schizophrenia (統合失調症入院患者のケア時間に対する患者特性の影響)				
<p>本研究では、全国の102ヶ所の精神科病院の入院患者14,557人のうち、統合失調症と診断された8,379人を対象として、職種別の時給によって重みづけたケア時間のコストと患者特性を統計解析してケースミックス分類を作成した。その結果、長期入院患者の中にも長いケア時間が提供された患者群の存在が明らかになり、現在の在院日数と看護配置に基づいた診療報酬体系から、患者の特性を反映した体系に改める必要性が示唆された。</p> <p>審査では、まずClassification and Regression Tree (CART) を使った診療報酬システムが実際に存在するのかと質問があり、アメリカのナーシングホームでは実際に導入されていると回答された。次にCARTの利点を問われ、CARTはケースミックス分類を作成する標準的な分析方法であり、結果がわかりやすく、交互作用の分析が容易である利点があると回答された。</p> <p>ケア時間はケアの技術によって左右されるはずであり、それを考慮したかと質問があり、現段階ではケアの質を直接図る指標がなく、単位時間当たりのケアの質は同一との仮定があり、今後の検討課題であると回答された。ここで、各施設間でケア時間の平均値に差があるかどうかを確認すべきであり、さらに結果の安定性を検証するために交差確認法を行うべきであったと指摘があった。また、説明率が23.4%であることの評価について問われたが、これは先行研究と比較して同等かむしろ高いと回答された。</p> <p>次に、ケア時間に最も影響を与える変数が在院日数となるのは統合失調症の特徴か否かが問われ、おそらく多くの精神疾患で在院日数が、診療報酬の人員配置等の規定からケア時間に大きな影響を与えるであろうと回答された。解析では統合失調症の重症度、病型による違いを考慮しているのかと質問があり、今回は精神科病院に入院中のInternational Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, 10th Revision (ICD-10) (国際疾病分類第10版) で統合失調症と診断された患者すべてを対象としており、症状評価尺度も説明変数に入れているが、病型は考慮していない旨回答された。また、ここで評価されている認知機能は正確には短期記憶ではなく近時記憶であるとの指摘があった。</p> <p>最後に、本分類法をそのまま支払方式にすることは可能なのかとの質問があったが、今後、薬剤など今回対象としなかった直接経費や光熱費などの間接経費も含めてさらなる研究が必要であると回答された。そして、現行の支払い方式のどこをどのように変更したらよいかの提言を問われ、現行の看護配置基準と在院日数で診療報酬が決まる方式から、患者特性に基づいたケースミックス分類の方式に改めるべきであると回答がなされた。</p> <p>以上のように本研究では更に検討すべき課題を残しているが、精神科病院に入院中の8千以上の統合失調所患者における重みづけケア時間と患者特性に基づいてケースミックス分類を開発した有意義な研究であると評価された。</p>				